

# JA全農 WEEKLY

4面

## JAアクセラレーター第3期、9社が優秀賞を受賞 (経営企画部)

6-7面

### 全農グループ会社探訪

### JA全農ラドファ株式会社 (広報・調査部)



優秀賞を受賞した9社の皆さん(左上は主催者)(4面)



欧州への輸出入用コンテナに積み込まれるラドファのバックごはん(2面)



リニューアルしたブランド卵「しんたまご」(8面)

2 JA全農ラドファ(株)の「バックごはん」  
欧州へ(米穀部)

自動ロボット草刈り機実演会を実施  
(徳島県本部)

3 支援学校で鳥獣害対策の  
出前授業を開催(東北営農資材事業所)

里海米「雄町」使用の  
海中熟成酒水揚げ(岡山県本部)

5 JAズームイン(大分県:JAべっぶ日出)

8 ブランド卵「しんたまご」発売30周年  
6月にリニューアル(JA全農たまご(株))

「東北六県絆米」の  
クラウドファンディング開始  
(全農東北プロジェクト・全農ECソリューションズ)

JAタウンショップ紹介  
JAならけん

Web版JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!

# ラドファ「バックごはん」欧州へ

6月に出港、欧州での販売開始

米穀部

輸出用コンテナに積み込まれるJ A全農ラドファ(株)のバックごはん



米穀部とJ A全農インターナショナル(株)は6月に、J A全農ラドファ(株)の「バックごはん」を欧州向けに輸出しました。欧州では、全農インターナショナル欧州(株)が既存取引先への販売のほか、新たなニーズの掘り起こしに取り組みます。

J A全農インターナショナル(株)は、同社の欧州現地法人である全農インターナショナル欧州(株)と連携して、国産農畜産物の欧州地域へ

の輸出拡大に取り組んでいきます。日本産米の現地における需要拡大の観点から、4月から全農グループとなったJ A全農ラドファ(株)(6月に株J A加美

よつばラドファから社名を変更)の「バックごはん」を7月から販売開始します。現地では既存取引先への販売のほか、新たなニーズの掘り起こしのため、新規取引先を開拓していく予定です。全農グループは、バックごはんの販売を通じて、日本産米の価値を訴求するとともに販売拡大に取り組んでいきます。

News!

# 自動ロボット草刈り機実演会を実施

生産現場の支援に向け最新技術を提案

徳島県本部



草刈りの様子を熱心に確認する参加者

徳島県本部は4月27日、J A大津松茂の協力のもと、同J A管内の梨園<sup>ほ</sup>場で「自動ロボット草刈り機実演会」を実施しました。この実演会はロボット技術やICT、情報通信技術を活用したスマート農業の実用性を提案し、生産者の労力軽減につなげてもらうことを目的としています。

実演会には、J A関係者、生産者など約40人が参加し、ハスクバーナ・ゼノア株式会社(オトモア)のロボット草刈り機Automower(オートモア)が境界ワイヤーを埋め込んだ稼働エリア内を動き回り、搭載されている障害物の衝突感知機能・自動

充電機能による全自動での草刈り作業を行いました。参加した生産者は「草刈りの労力を減らせ、除草剤も使用しなくてよいのは魅力」と導入への意欲を示していました。

徳島県本部では、今後もロボット草刈り機を含めたさまざまな農業機械の実演などを行い、生産者の労力軽減を支援する取り組みを進めていきます。



ロボット草刈り機Automower(オートモア)



# 支援学校で鳥獣害対策の出前授業を開催

地域農業と障害者雇用が結びつく「農福連携」を目指す

東北営農資材事業所



鳥獣害についての講義



支援学校仙台台みらい高等学園は「全農東北プロジェクト」で連携している三幸学園が新設した学校で、食農コースを設置しています。障害者雇用の促進と共生社会の実現を目指す学園と、

東北営農資材事業所は5月13日に農福連携の取り組みの環境として、DMMアグリイノベーション、BASFジャパンと支援学校仙台台みらい高等学園で鳥獣害対策の出前授業を行いました。

学園の圃場に電気柵を設置



労働力不足の課題に取り組む全農が、宮城県で大きな問題となっている鳥獣害をテーマに連携し、DMMアグリ、BASF協力のもと出前授業を実施しました。授業では鳥獣害について講義した後、学園の圃場へ電気柵を設置しました。生徒たちは積極的に参加し、鳥獣害への理解を深めていました。東北営農資材事業所は、地域農業と障害者雇用が結びつく「農福連携」を目指して、取り組みを進めていきます。

出前授業を実施しました。授業では鳥獣害について講義した後、学園の圃場へ電気柵を設置しました。生徒たちは積極的に参加し、鳥獣害への理解を深めていました。



# 里海米「雄町」使用の海中熟成酒水揚げ

日本酒の消費喚起を目指す

岡山県本部



水揚げ直後の瓶



末吉丸の協力で水揚げされた海中熟成酒

ワカメ漁業を営む「末吉丸」の協力で、今年の2月に720ml瓶60本を水深10㍍

15mの海中に沈めました。海中で熟成させることで、波の揺れなどの微弱振動の影響により、アルコールが水の分子の隙間に入り込み、地上での通常熟成に比べて、約10倍の速さで熟成が進むと言われています。

岡山県本部と三冠酒造有限会社は5月18日、倉敷市下津井で、「瀬戸内かきからアグリHP推進協議会」が取り組む、里海米「雄町」を使用した海中熟成酒の水揚げを行いました。水揚げした海中熟成酒は、岡山小売酒販協同組合を通じて、県内の酒販店での販売を予定しています。

当日は波の揺れなどで瓶が割れることなく、全て無事に水揚げに成功しました。岡山県本部は、この取り組みが少しでも日本酒の消費喚起につながることを期待しています。

瀬戸内かきからアグリHPはこちら



# JAアクセラレーター第3期、9社が優秀賞を受賞



## キーワードは「食と農、くらしの未来を共創する」

JAグループ全国8連が設立したAgVenture Lab(アグベンチャーラボ)は、JAグループと革新的なアイデアや技術を持ったスタートアップ企業が連携して、農業、地域社会が抱えるさまざまな課題解決を目指す「JAアクセラレーター第3期」(以下、本プログラム)の最終審査会を5月24日にオンラインで開催しました。【経営企画部】



優秀賞を受賞した9社の皆さん(左上は主催者)

3期目となった今回は「食と農、くらしの未来を共創する」をキーワードに、既存ビジネスにとられない新しい発想や技術に基づくビジネスプランを幅広く募集し、過去最多の211件(第2期...161件)の応募がありました。今回、書類・面談選考を通過し最終選考に進んだ15社のうち、本プログラムへ参

### — 優秀賞(採択企業)9社 —

社名	プラン名
EF Polymer Pvt. Ltd.	生ゴミから作る、干ばつや土壌劣化を解決するオーガニックポリマー
(株)エアロネクスト	空を活用した新スマート物流
エンゲート(株)	「世界初の」スポーツ特化型SNSギフトイング
(株)Ciamo	廃棄物で作る「光合成細菌」で持続可能な農業と水産養殖の実現
(株)事業革新パートナーズ	植物由来バイオプラスチックHEMIX農林水産業連携
(株)地元カンパニー	ストーリーを流通させる「地元のギフト」
東京ロボティクス(株)	自律協働ロボットで選果場の人手不足を解消
(株)MISOVATION	味噌汁で世界の予防医療にイノベーションを起こす
(株)みまもりベイ	超高齢社会のスタンダードな決済

加する9社のスタートアップ企業(以下、採択企業)を優秀賞として採択しました。採択企業は、今後約5か月間、JAグループおよび本プログラムのスポンサーである農林中央金庫や全農の職員による伴走支援を受けながら、ビジネスプランをブラッシュアップさせていきます。選定した審査員からは、「応募数の増加とともにレベルが非常に高くなってきている。生産性向上、農業関係人口の拡大、労働力支援、脱炭素の視点からも、15社全てのビジネスプランが素晴らしく、優秀賞の選定に非常に苦労した」「農業分野でのスタートアップ企業支援プログラムでNo.1のポジションを築き上げつつあると感じた。農業分野は投資の観点でも非常にグローバルに注目されていることもあり、投資目線でも十分に検討に値するスタートアップ企業もあった」との講評がありました。

今回より、本プログラム期間中における実証実験にあたって最大100万円の実証実験費用補助を実施し、採択企業の成長をサポートし、11月には採択企業の成果発表会を予定しています。また、イノベーター賞を授与した6社についても、本プログラム外で協業や支援を検討していきます。



審査・講評を行う全農久保常務



# 感謝の声が組合員から届く

# 援農やサークル活動が好評

JAべっぷ日出は別府市と速見郡日出町の2JAが合併して、2010年9月に誕生しました。

## 「農業応援隊」で職員派遣

同JAでは、業務の一環として全職員が1年のうち数日間、農家や農業法人の農作業を手伝う「農業応援隊」を2018年度より実施しています。この取り組みは、高



農業応援隊

齢化や担い手不足による農業労働力の低下を少しでも補うことを目的に導入しました。主な作業内容は、田植えから稲刈り、もみ摺りに至るまでの各作業補助や、農産物の収穫、草刈りなど多岐にわたります。

働き手として職員を派遣することで、受け入れ先からは、繁忙期の協力を感謝の声を頂いています。実際にハウスみかんの収穫が間に合わない農家へ職員を派遣し、損失を防いだ例もあります。

また、普段農作業とは縁のない職員も少なくないため、こうした経験は農家の立場を理解するうえで大変有益なものとなっています。現場に向くことで、農家の実情を知ることができ、農家との距離を

縮めることに役立っています。新規支援先の拡大も随時行っており、地域に根差した活動を今後も継続していきます。

## 女性参加型サークル活動を実施

JAくらしの活動を通じて地域コミュニティの活性化とJAファンを増やすことを



おにぎり教室調理の様子

## JAべっぷ日出(大分県)



概要	令和3年3月31日現在
正組合員数	2556人
准組合員数	1万4079人
職員数	137人
販売品取扱高	13億7千万円
購買品取扱高	3億9千万円
貯金残高	932億6千万円
長期共済保有高	1966億3千万円
主な農産物	ギンナン、柑橘、梨、カボチャ、キュウリ

目的に、3年前から管内准組合員の女性を対象としたサークル活動を実施しています。募集は、おもに30代〜50代を中心とし、次世代対策を視野に入れたさまざまな活動を年間5回程度企画・案内しています。これまで行った活動は、子どもと一緒に参加できるおにぎり教室や料理人直伝の地元野菜を使った料理教室などがあり、毎回20人程度の方に参加していただき大変好評を得ています。

## 農機レンタルサービスを開始

自己改革のひとつである「農業者の所得増大」への取り組みとして、農家の経済的負担を軽減することを目的に2019年より農業機械の

レンタルサービスを開始しました。現在扱っている機種は、管理機、草刈機、動噴、ハンマーナイフモア、チップパーシュレッダー。特にハンマーナイフモアは、繁忙期には毎日貸出が途絶えず予約が殺到するほどの人気です。

公式YouTubeチャンネルでも実演動画を配信して機種を紹介しています。



農機レンタルハンマーナイフモア実演



J A全農ラドファ株式会社

独自製法で27年間、パックごはんを製造・販売  
新工場稼働で国産米の販売拡大目指す



今年4月から全農のグループ会社となったJ A全農ラドファ株式会社は、「ガス直火炊き」、「シャリ切り」といった米のおいしさを最大限に引き出す独自製法で27年間、パックごはんを製造・販売しています。来年には新工場を稼働して生産能力を拡大し、国産米のさらなる販売拡大を目指します。

【広報・調査部】

米の付加価値販売目指し  
包装米飯製造会社を設立

ラドファは1993(平成5)年12月に、J A加美よつばの子会社として設立されました。J Aは米を集荷・管理し、全農や経済連が販売する中で、J Aとして集荷した米に付加価値をつけて販売するにはどうしたらよいか考え、米を原料に通年販売できる「パックごはん」に着目しました。

J Aの営農指導員が生産者をサポートし、苗作りから稲刈

りまで徹底した栽培管理のもと、栽培に適した土地で米を作ります。玄米をベストな状態で保管・管理し、その都度精米・選別して炊飯しています。消費者の声や実需者からの要望を生産者にフィードバックし、米作りに反映するなど、「会話型」の販売に取り組んできました。

宮城県で育成された「ササニシキ」や「ひとめぼれ」、「だて正夢」のパックごはんをはじめ、「金のいぶき」の発芽玄米ごはんなど、消費者ニーズに合わせた商品も展開しています。また、

## 地元から全国・世界へ 国産米のさらなる 販売拡大を目指す

代表取締役社長  
**千葉 房俊**



稲作を主とする地元農業の持続と発展、地域社会への貢献を目指し、取り組んできました。生産者側の農協と、より実需者や消費者に近い全農が手を組むことで、全農の販売力を生かし、地元から全国、世界へと、国産米のさらなる販売拡大を目指します。また、米の需要が拡大することで、生産者は安心して米を作ることができます。そして「米」は日本の主食で、文化でもあります。日本の耕種文化を子々孫々まで継承していきたいと思っています。

ラドファのごはんの特徴は、独自の製法にあります。生産者が適地で丁寧に栽培し、品質管理した米をふくらつやのあるごはんに炊きあげるため、大きな釜で「ガス直火炊き」しています。それを蒸らした後に「シャリ切り」して余分な水蒸気を発散させることで、むらのない粒の立つたおいしいごはんになります。そして炊き立てのおいしさを逃さないよう、パックに充てんしてい

「おいしさの秘けつは  
「ガス直火炊き」と  
「シャリ切り」

学校給食へ炊飯した温かいごはんを供給し、地域の子どもたちに宮城米のおいしさを伝えています。

2022(令和4)年には、JA加美よつば管内で炊飯に適する水質の土地に新工場を設立。新工場の生産能力は現工場の4倍にあたる年間1620万食を予定しており、家庭用に加え、業務用や海外市場へも国産米パックごはんの販売拡大を図ります。今までは宮城県産米が中心でしたが、今後は全国の農家の方々が生産した米も扱い、各産地の銘柄米パックごはんの商品化などに取り組みます。また、食品ロスや省力化を目指す外食・中食向けへの利用提案、海

**2022年に新工場稼働  
規模拡大し、全国、世界へ**

ます。原料は米と水だけで、添加剤などは使用していません。



製造ライン

外へは「ごはんのお供」をセットにした商品開発や販売を強化します。それに先駆け、今夏には牛乳や卵を展開する「農協シリーズ」で、「農協ごはん」の発売を予定しています。

### 会社の概要 (令和3年6月1日現在)

- 本社所在地** 宮城県加美郡加美町四日市場字中荒井245-2
- 事業内容** パックごはんの製造・卸売
- 設立年月** 1993(平成5)年12月
- 代表者** 千葉房俊
- 従業員数** 23人



公式ホームページはこちら



<http://www.jaradfa.jp/index.html>

「バラエティセット」(ひとめぼれ・ササニシキ各9パック、金のいぶき12パック)を5名様にプレゼントします。

#### 応募方法

件名に「グループ会社探訪プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールにてご応募ください。

#### 応募先

zz\_zk\_zennohweekly@zennoh.or.jp

#### 締め切り

令和3年7月2日(金)23時59分



※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。  
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

# 「しんたまご」 愛されて30年

JA全農たまご株式会社は、ブランド卵「しんたまご」の発売30周年を記念して、6月にパッケージをリニューアルしました。 【JA全農たまご(株)】

「ワンランク上の安心でおいしいたまごを作りたい」という思いのもと、全農グループの研究部門と販売部門のスペシャリストが集い、総力を結集して、1991年4月に「しんたまご」が誕生しました。誕生以来、時代に合わせて少

「しんたまご」(10個入り)



※商品発売地域は、HPをご参照ください(https://www.jz-tamago.co.jp/shintama/)

しずつ改良を重ねることで、皆さまに愛され30年を迎えることができました。発売当初の思いを踏まえ「おいしくて、家族にうれしい」をコンセプトにリニューアルし、これからも皆さまに愛され続けるよう改良を重ねていきます。

東北の食  
未来プロジェクト



## 「東北六県絆米」の クラウドファンディング開始



全農東北プロジェクトは、コロナ禍の影響を受ける東北の米生産者を支援するため、全農ECソリューションズ(株)が開発した「食と農のクラウドファンディング AGRISSIVE!」で東北六県絆米の企画をスタートしました

【全農東北プロジェクト・全農ECソリューションズ】

全農東北プロジェクトは、コロナ禍で米消費が低迷していることを受け、東北の米生産者への応援の輪を広げる活動の一つとしてクラウドファンディング企画をスタートしました。

「東北六県絆米」は、東北の農家が切磋琢磨して育てたお米を消費者に味わってもらうことをコンセプトに開発されたことから、この企画で米生産者の応援につながることを期待しています。

東北六県  
絆米



<商品概要>

商品名:東北六県絆米  
規格:300g(約2合)×6(脱気包装)  
支援金:4000円

支援はこちらから

食と農のクラウド  
ファンディング  
AGRISSIVE!



JA全農のインターネットショッピングモール  
JAタウンショップ紹介

### JAならけん

艶やかな紫黒色にぼつりとした丸い形状の「大和丸なす」は奈良県内で古くから栽培され、「大和の伝統野菜」にも認定されています。

肉質はしっかりしてきめ細やかで、油との相性が良く食感が柔らかなのが特長です。実が締まって油を吸いすぎず、煮崩れしにくいいため、定番の田楽や揚げ物、煮物など、さまざまな料理のアイテムとして使えます。

奈良の歴史と文化を受け継いだ「大和丸なす」を、ぜひご賞味ください。



大和の伝統野菜★大和丸なす 8玉入り  
約2Kg.....1550円(税込)

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは ☑ [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)



『JA全農トピックス』の  
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、  
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋  
になります。